

【平成17年3月期中間決算記者会見資料】

契約の状況等

	(百万円)	2004年9月期 (末)			04年3月期 (末)	03年9月期 (末)
		04/3期比	03/9期比			
新契約高	(百万円)	160,280	-	31.7% 減	444,001	234,673
保有契約高	(百万円)	3,024,544	3.5% 減	5.8% 減	3,135,754	3,212,060
解約・失効高	(百万円)	215,992	-	22.9% 減	518,716	280,223
解約・失効率	(%)	6.89	-	-	15.65	8.46
保険料等収入	(百万円)	56,158	-	39.7% 減	156,144	93,108
うち個人保険分野	(百万円)	49,793	-	40.8% 減	139,525	84,138
うち団体保険分野	(百万円)	5,396	-	23.0% 減	13,371	7,010
新契約年換算保険料	(百万円)	3,858	-	45.6% 減	11,573	7,097
うち第三分野	(百万円)	932	-	11.2% 増	1,603	838
(ご参考)						
保有契約年換算保険料	(百万円)	64,629	1.1% 増	2.1% 増	63,902	63,288
うち第三分野	(百万円)	9,025	2.8% 増	3.3% 増	8,775	8,734

保険料等収入以外は個人保険+個人年金保険

3月期比、9月期比は比率

解約・失効は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出(中間期の解約失効率は年換算前)

保険料等収入のうち個人保険分野は個人保険+個人年金保険、団体保険分野は団体保険+団体年金保険の合計保険料

年換算保険料の対象は個人保険と個人年金保険。月払契約は保険料を12倍して算出。一時払等は、保険料を保険期間で除した金額。

資産の状況等

	(百万円)	2004年9月末			04年3月末	03年9月末
		04/3末比	03/9末比			
総資産額	(百万円)	700,247	2.6% 増	6.1% 増	682,282	659,755
実質純資産額	(百万円)	44,573	28.7% 増	42.6% 増	34,638	31,257
実質純資産額/一般勘定資産	(%)	8.9	2.0% 増	2.9% 増	6.9	6.0
ソラビティ・マージン比率	(%)	1,451.3	466.5% 増	492.2% 増	984.8	959.1

3月末比、9月末比は比率(実質純資産額/一般勘定資産、ソラビティ・マージン比率は増減% 増)

基礎利益・逆ざや

	(百万円)	2004年9月期			04年3月期	03年9月期
		04/3期比	03/9期比			
基礎利益	(百万円)	2,227	-	3.5% 減	3,153	2,307

9月期比は比率

	(百万円)	2005年3月期の予想	2004年3月期の実額
逆ざや額	(百万円)	40億円	3,993

準備金

	(百万円)	2004年9月末			04年3月末	03年9月末
		04/3末比	03/9末比			
責任準備金(除く危険準備金)	(百万円)	633,357	8,217 増	33,045 増	625,140	600,312
うち一般勘定(除く危険準備金)	(百万円)	434,685	13,109 減	25,390 減	447,794	460,076
うち特別勘定(除く危険準備金)	(百万円)	198,672	21,326 増	58,436 増	177,345	140,235
価格変動準備金	(百万円)	244	50 増	85 増	194	158
危険準備金	(百万円)	690	224 増	337 増	465	353
うち危険準備金	(百万円)	690	224 増	337 増	465	353
うち危険準備金	(百万円)	-	-	-	-	-
危険準備積立金	(百万円)	-	-	-	-	-
価格変動積立金	(百万円)	-	-	-	-	-
別途積立金	(百万円)	-	-	-	-	-

04年3月末の別途積立金は、利益処分後の残高を記載。

3月末比、9月末比は増減実額

含み損益

		2004年9月末		04年3月末	03年9月末
			04/3末比	03/9末比	
有価証券	(百万円)	1,395	208減	1,880増	1,604
うち国内株式	(百万円)	44	55減	5増	99
うち国内債券	(百万円)	1,737	808増	2,448増	929
うち外国証券	(百万円)	1,282	426減	36減	855
不動産	(百万円)	-	-	-	-

3月末比、9月末比は増減実額

有価証券の含み損益は、有価証券のうち時価のあるものについて、満期保有目的の債券の差損益およびその他有価証券評価差額の合計値を記載。

運用実績と計画

		上期実績	下期計画
国内株式	(百万円)	63減	横ばい
国内債券	(百万円)	16,562減	増加
外国株等	(百万円)	409減	横ばい
外国債券	(百万円)	506減	横ばい
その他の証券	(百万円)	8,080増	減少
不動産	(百万円)	443減	減少

中間期実績は、帳簿価額ベースでの増減額を記載しています。

資産の損益がゼロになる水準

		2004年9月末時点	
国内株式(日経平均)	(円)	11,450円程度	
国内株式(TOPIX)	(ポイント)	1,165程度	
国内債券	(%)	パラレルシフト	1.5%程度
		スティーブ化	1.5%程度
外国証券	(円)	111円程度	

上記数値は、当社のポートフォリオが日経平均株価やTOPIX、新発10年国債利回り、ドル円レートに連動すると仮定し、2004年9月末時点の保有状況により試算した結果です。ただし、当社のポートフォリオはこれらの指標に連動するとは限りませんので、試算時点によりこれらの数値は異なります。

国内株式は、株価指数型投資信託(ETF)を対象としております。

国内債券は新発10年国債利回り(9月末1.44%)換算し、小数点第一位まで算出しております。なお、国内債券は、“パラレルシフト”では9月末実績のイールドカーブが平行移動した場合の、“スティーブ化”では短期金利は現状のゼロ金利のまま残存期間の長い金利ほど、より上昇すると仮定した場合の含み損益がゼロとなる新発10年国債利回りの試算値を記載しております。

外国証券はドル円(9月末111.05円)換算にて算出いたしました。

2005年3月期の業績見通し

		2005年3月期予想
保険料等収入	(億円)	1,180
基礎利益	(億円)	40
保有契約高	(億円)	29,260

保有契約高は個人保険と個人年金保険の合計。

実際の業績は、今後さまざまな要因によって、上記業績見通しと大きく異なることがあります。

銀行との資本持ち合いについて
銀行からの拠出(総額)

		2004年9月末
基金(株式)に対する拠出	(百万円)	該当なし
劣後ローン等	(百万円)	該当なし

銀行からの拠出の劣後ローン等は、劣後ローン及び劣後債
銀行からの拠出の株式は9月末の時価

銀行への拠出(総額)

		2004年9月末
保有している銀行株(時価総額)	(百万円)	2,504
優先株(海外SPCへの出資)	(百万円)	-
優先出資証券(海外SPC等への出資)	(百万円)	-
劣後ローン等	(百万円)	16,994

銀行への拠出の保有している株式には優先株を含む。(各行・グループの海外現法への出資は除く)
銀行への拠出の劣後ローン等は、劣後ローンおよび劣後債

職員数

		2004年9月末		04年3月末	03年9月末
			04/3末比	03/9末比	
営業職員	(人)	733	23.2%減	22.7%減	954
内勤職員	(人)	477	2.1%減	3.2%減	487

3月末比、9月末比は比率

銀行窓販の状況(平成17年3月期中間期 新規契約)

	(件)	新契約件数	(百万円)	金額(収入保険料)
変額年金保険	(件)	2,740	(百万円)	21,683
定額年金保険	(件)	-	(百万円)	-

その他

)今後の自己資本増強策

- ・現在のところ、当社は十分な自己資本を有しており、具体的な資本増強計画はない。

)今後のリストラ計画

- ・コールセンターの増強等により事務の本社集中をすすめ、業務の効率化を一層推進していく。
- ・T&D保険グループでは、グループ内の重複する部門機能を集約して人員を効率的に配置し、生産性の向上を図る。

以上